

## アジアの方との文化の交流を！（味あんでないと）

## 活動の概要

当協議会は、真陽地区の24名の民生委員児童委員と約500名の婦人会に属する協力メンバーからなり、民生委員等の業務のほか、平成18年の夏頃より子どもたちの登下校の見守りをしてきました。

ここ神戸市長田区真陽地区は、アジアの外国人が市内で一番多い地域です。下町情緒が残る住みやすいまちですが、地元住民と外国人との交流はほとんどなく、両者の間では言葉の壁や習慣の違いなどからトラブルも多く発生しています。

そこで平成20年度には新たに、お互いを認め合い、地域のマナーを伝え、安心して安全な地域づくりにともに取り組むため、商店街、婦人会など地域団体、FMわいわい、神戸定住外国支援センター等が協力して、‘味あんでないと’と銘打った文化交流のイベントを開催しました。インドネシアのガムランの演奏、韓国の農楽演奏、子どもも参加するベトナムやタイの民族衣装でのパレード、日本の盆踊り、アジア各国料理の屋台の出店などをしました。最初は互いにぎこちなかったのですが、屋台を出店する外国人と食を通して気軽に話し、踊りなどを一緒に楽しみました。



民族衣装を着た子どもたちのパレード

## 成果

外国人の人と日常的なコミュニケーションができるようになりました。また、ベトナム人が開催する料理教室に日本人が参加するなど、異文化交流の輪が広がっています。



青銅打楽器『ジャワガムラン』の演奏



## 課題

二世である外国人の子どもたちは、日本生まれのため親より日本語は堪能です。日本語を話せない親と家庭内でのコミュニケーションがうまくいかないケースが目立っています。このような課題に対し、学校、民生委員児童委員、地域住民それぞれが果たすべき役割は大きくなっています。

## 夢・抱負・今後の推進方向

互いの理解を深め、顔の見える関係を築き、各団体との協力体制のもと、活気のある、日本人にとっても外国人にとっても安全安心な地域づくりを進めていきたいと考えています。

団体名：真陽地区民生委員児童委員協議会

氏名：山下 淑子

事務所の所在地：兵庫県神戸市長田区庄田町3丁目5-10-104

電話：078-641-0014 FAX：078-611-5611

⑧組織運営

役割や型にはまらない

民生児童委員は、地域の子どもや生活に困窮している人の見守りや手助けをするのが義務ですが、私たちの協議会は、それらに加えて、商店街や市場のイベントに参加したり、地元の六軒道商店街や市場、真陽小学校、地域住民などを巻き込んで‘味あんでないと’など多文化交流イベントを開催しています。全国大会で発表しても、そのような取り組みは珍しいと評価いただきました。

既存組織のこれまでの役割や枠にはまらず、どんなことでもみんなが喜ぶことに手助けをしよう、必要なことはしていこうという目標をかかげることが大切です。

⑥ネットワークづくり

諦めずに何度も話し合いをする

地域に関心をもっている団体同士が、意外と繋がっていないことが多いです。最初、このようなイベントを一緒にしましょう、とさまざまな団体等をお願いに行った際もそれぞれの縄張りや派閥がありました。しかし、諦めずに何度も話し、互いの言い分やイベントの趣旨を理解することで開催が実現しました。

また、話し合うだけではなく、ベトナム料理の講習会に私たちが参加したり、日本料理の講習会に参加してもらったり、協力する団体同士が折に触れお互いの文化風土に触れ合うことも重要です。

⑥ネットワークづくり

理解を深めるためにつなぎ役を工夫する

外国の人とのコミュニケーションといっても、まだまだ大人とはお互いの国の言葉でのやりとりができず、子どもが間に入って通訳するという形でコミュニケーションをとります。子どもたちと当協議会のメンバーは、登下校の見守り活動を通じて顔見知りです。人間関係がわかるので互いに安心感がありコミュニケーションをとりやすいのです。

⑧組織運営

家族の協力を得る努力をする

活動をしていくためには、どんなことよりもそれぞれの家族の協力が必要不可欠です。婦人会のメンバーであれば、それぞれの夫に理解いただくために説明をしますし、民生委員は男性が多いのですが、それぞれの妻に声をかけ、理解してもらえるよう努めます。

何かを行うためには絶対に家族のバックアップがないとできません。私たちは、常々、このことに配慮しながら輪を繋げています。



有馬の歴史資料を一元的に集約管理しています

活動の概要

神戸市北区有馬町は、古い歴史と豊かな文化を育んできた地域で、古文書、版本等の貴重な歴史資料が残っていますが、散在しており、体系的に保存されず、その散逸が危ぶまれていました。また、住民もそれらの資料に触れる機会がほとんどありませんでした。

このような状況から、住民が危機感を感じたことから、県民交流広場事業として「有馬文庫室」を整備し、学識者の助言を得ながら、資料の保存・展示、古文書の解説・翻訳等を地域住民自らが行っています。



成果

- ① 収集した成果を、資料展として有馬地域福祉センターや「有馬の工房」等で開催し、多くの町民やその他の方々に見ていただきました。
- ② 北区主催の有馬学講座に協力し、講演資料、クイズの出題元、展示用資料などに活用しました。また、大学生の卒論資料、TV放映の資料等への活用が増え、有馬温泉の認知度向上に資しています。
- ③ 資料の整理等に当たって、ボランティアにも協力をいただいております、その方々が次代の文庫事業を支えていただけると期待しています。
- ④ 文庫事業を通じて、他の地域との交流、他の事業との協働ができました。(柘植龍洲を通じて柏原市との交流、銅製経箱の購入、展示など)

課題

自分たちの町の歴史を知り、愛着を持ち、その大切さを次世代に伝えていくことが課題です。そのため、子供たちへ昔のことを伝える会なども行っています。

また、有馬文庫を地域で運営し、有馬を訪れた方々に町の魅力を肉声で伝えるための具体的な方策、たとえば、観光ボランティアとの交流・協力が今後の課題です。

夢・抱負・今後の推進方向

昭和30年ごろは、人々の生活が大きく変わった時期です。

有馬文庫での取り組みの一環として、住民が戦前から昭和40年代の街並みや風習、戦時中の暮らし、災害の体験などを語る「昔のことを語ろう会」を毎月開催し、400を超える思い出話を冊子にまとめていきたいと考えています。

また、地域のお年寄りがいきいきと町の歴史を語り合っている輪に観光客も一緒に入って楽しく過ごしたり、町のあちこちの歴史について、分かりやすい説明板を設け、案内するなど、町そのものが博物館の雰囲気を持つことを目指しています。

団体名：有馬ふれあいのまちづくり協議会

氏名：梶木 剛 担当 武内志津子（神戸市まち育てサポーター）

事務所の所在地：神戸市北区有馬町241-3

電話：078-904-0081（神戸市北区役所有馬連絡所）

FAX：078-907-2003（神戸市北区役所有馬連絡所）

E-mail：arimabunko1191@dune.ocn.ne.jp

## ノウハウ・コツ

### ①人材養成

#### サポーターの協力を

人材育成に向けて、まちづくりサポーター（神戸市北区役所の委嘱）の全面的協力を得ています。

「昔のことを語ろう会」等への参加者から今後のリーダーやスタッフに育ってくれることを期待しています。

### ⑤広報・情報共有

#### 地域広報誌を全戸配布

県民交流広場事業での活動を地域の方に広く知っていただき、また、成果を発信していくため、地域広報誌「ありま瓦版」（ふれまち発行、毎月、1100部全戸配布）には、必ず、毎月、スペースを設けて、有馬文庫（県民交流広場事業）を取り上げ、周知を図っています。

### ②活動資金

#### 必要に応じて利用料を徴収

文庫資料の閲覧は無料としていますが、これからも継続した活動を続けていくために、資料の複写や写真データを有料で提供するなどし、自己資金の確保に努めています。

具体的には、史資料のコピー、パソコン出力等を有料（協力金）とし、また、特に営業に関するものについて高額の協力金をいただくように考えています。（テレビ放映用の古写真複写は20,000円など）

## ひとことメッセージ

まちづくりに関わるすべての方とっては、過言かもしれませんが、協力者・参加者を集めることに四苦八苦していらっしやると思っています。相変わらず自分自身もそうなのですが、「自分が楽しむことかな」とだいぶ割り切って考えられるようになってきました。



有馬文庫は、有馬ふれあいのまちづくり協議会が二〇〇六年、有馬地域福祉センター内に開設。約二千点の書籍や写真、地図などを収蔵する。一有馬の歴史を知ってもらうことで、利用客がよりお湯を楽しめるのは「とかんぼの宿有馬の羽川純一総支配人（まご）が同協議会に展示を依頼。同協議会も「たくさんの人に見てもらえるなら」と快諾した。今回は「有馬の色紙」と題し、有馬小学校で開かれる地域合同運動会や文化祭、桜や雪の風景といった四季折々の写真を紹介した。有馬の年表や、江戸時代の「諸園温泉効能書付」なども並ぶ。



平成21年4月28日 神戸新聞

新たな創造で地域文化を発信！笑顔を繋ぎ、喜びの輪を広げる！

活動の概要

西宮市には多くの豊かな歴史や文化、交流があり、それらを守っていこうとする熱意ある方がたくさんおられます。それら素晴らしい財産を舞台芸術やイベントを通じて多くの人々に発信し、笑顔多き時間と空間、出会いを創出したいと活動を始めました。

メンバーは、市内在住の女性、音楽家、起業をめざす仲間（西宮商工会議所レディースアカデミー生）です。

昨年は、西宮市と文化振興財団が主催する「市民プロデュース事業 西宮虹舞台」に応募し、『講談で聴く！笹部新太郎の心』の舞台が実現しました。

明治期に生涯を桜の研究に捧げた笹部新太郎翁が収集した桜に関する資料や美術品が西宮市に寄贈され、現在も保管されています。翁を偲び、西宮市の市花である桜に対する愛着を深め、後世に残す財産としての認識を深める機会としたかったので、翁の生き様と情熱を伝統芸能である講談に書き下ろし、ハープの演奏と映像も添え、桜ムードいっぱいの舞台として表現しました。

その他、地域文化活動の一環として『ハープで味わう朗読の世界』の開催、商工会議所主催の企業家セミナーのメンバーとの話し方勉強会など、地域コミュニティーの活性化をはかるため、さまざまな発信をし続けています。



成果

『講談で聴く！笹部新太郎の心』の公演後も関係者や支援者らとの交流は続き、企画の構想、イベント、講座の開催と少しずつですが次のコラボレーションが形になり始めています。

課題

コンスタントに活動を続けられるよう活動資金の確保、組織づくりなど、ソフト・ハード両面での体制づくり。

夢・抱負・今後の推進方向

一主婦、子育て中の働く女性としての感性を大切に、身近な声に耳を傾けながら、地域文化を再確認するイベント企画に加え、心豊かなライフスタイルの提案、働く女性や可能性を秘めたママたちが輝けるシステムづくり、商品開発をしたい。

みんなで笑顔になれるよう、みんなが幸せになれるように活動を進めていきたい。

団体名：さくらプロジェクト【雅】

氏名：山村雅代

事務所の所在地：西宮市大谷町2-6

電話：090-8377-0570

E-mail：himapopo@iris.eonet.ne.jp

## ノウハウ・コツ

### ⑥ネットワークづくり

#### 熱い思いと感謝の気持ちがあれば協力者は見つかる

自身の熱い思い、発信したい明確なもの、感謝の気持ちがあれば、必ずパートナーやサポーターは見つかるということを確認しました。

熱い思いが先立ち、無謀にも私ひとりでこのプロジェクトをスタートしました。出演者や地域情報ポータルサイト『西宮流』を軸に、当時笹部翁と交流のあった人々、白鹿記念酒造博物館、阪神文化創造会議、商工会議所、商店街の方 コミュニティーFM、ママ友、仕事仲間と多くの方の賛同と協力を得、すばらしいネットワークができました。

紹介先から新たな繋がりが生まれたりと積極的に交流することで新しい出会いや学びがたくさんありました。



### ⑤広報・情報共有

#### 新聞とネット情報誌の集客効果は大きい

今回プレスリリースを出したことで新聞などにも取り上げてもらいましたが、新聞媒体の反響の大きさを再確認しました。また、ネット情報誌などにもPRしましたが、地元だけでなく、大阪、奈良、京都また東京からも足を運んでくださった方があり驚くばかりでした。ネット社会だからこそそのメリットを強く感じました。



### ⑦行政の活用

#### 行政の名前が信頼感を増す

初めての活動(公演)となった虹舞台は、西宮市と(財)西宮市文化振興財団主催の市民プロデュース事業に応募し、審査を経て助成金を受け、活動源としました。

主催側に行政名があることで信頼感も増し、協力いただける企業や団体探し、PR活動も比較的スムーズに進めることができました。また 公の施設などにも好意的にチラシやポスターを貼らせていただくことができ、大変ありがたかったです。

### ひとことメッセージ

踏み出すことで得られるたくさんの感動があり、人との出会いが多く学びを与えてくれます。また、自分と向き合う、厳しくも得がたい貴重な時間ができます。

今回の虹舞台開催にあたり、『人』とのつながりの大切さ、すべては『ひと』であるとの実感を得ました。

勇気を持って一歩前へ！感謝と真心を持って踏み出せば、必ず明日が見えてきます♪

## Childrenの歌をどこへでも

## 活動の概要

音楽好きな10代後半から20代前半の学生や社会人(約30名)が、音楽活動を通じて地域や幅広い世代との交流を図りながら、青少年の居場所づくりをしようと始めた活動です。また、大人との交流の中で、青少年が社会のルールや責任を自覚することをめざしています。

市内外の老人ホーム、幼稚園、学校、地域などから依頼を受け、施設訪問、楽器の演奏指導、講演会でのスピーチ・演奏、祭りなど地域イベントでの演奏活動をしています。

その他に、毎年一度、当会主催のライブの実施、プレミア宝塚(宝塚市立の老人福祉センターと大型児童センターの複合施設で高齢者と児童に①学習・文化活動 ②仲間づくり ③交流の場を提供)にてギター・ベース・ドラムの講師、「とっとり花回廊」(鳥取県立の日本最大級のフラワーパーク)への出張演奏、FM宝塚に準レギュラー出演などをしました。

## 成果

イベントでの演奏をきいて、主催事業に出演してほしいといった声がかかるようになり、自分たちの音楽を発信できる機会が増えました。

## 課題

これまで10代、20代を中心に活動を行ってきたが、中・高生が新しく入ってこないため、後輩が育っていない。青少年の居場所づくりのために発足したグループなので、より多くの若い世代の人たちに活動に参加してもらえよう、児童館などに呼びかけを行っています。

## 夢・抱負・今後の推進方向

自分たちの力でイベントを企画し、成功させたい。

音楽を通じてたくさんの人と交流(セッション)し、自分たちの技術を高めつつ、地域に貢献したい。



団体名：ボランティアグループ Children

氏名：(リーダー) 松下 望

連絡先：山本 道子 宝塚市南ひばりガ丘1-4-15

電話：0797-89-5414 FAX：0797-89-5414

E-mail：micyamamoto2000@ybb.ne.jp

## ノウハウ・コツ

### ①人材養成

#### チーム内での演奏指導とイベント現場で学ぶ

最初から演奏のできる人材が入ってきている訳ではなく、ほとんどのメンバーが素人状態で入ってきます。演奏のできる先輩が教えてくれたり、仲間でアドバイスし合うことで技術を磨き、よりよい演奏を提供できるよう努力しています。

兵庫県が'09年11月に淡路で開催した「ふれあいの祭典ー淡路ふれあいフェスティバル」では、淡路で活動している団体が日頃の成果を発表する「島っ子ステージ2008 ONOKORO会場」でステージの企画から運営までを行い、演奏者としても参加しました。

若者が企画段階から主体的に参画したことから非常に喜んでいただきました。メンバーにとってもこのような機会は少ないので、貴重な学びの場となりました。



### ③活動場所

#### どんな場所へでも演奏に出かけます

主に宝塚を中心に活動していますが、依頼があればどこへでも演奏しに行きます。これまでも場所や内容を選ばず、たくさんのイベントや施設、講演会に参加してきました。幅広い世代の人やさまざまな地域の人とお話する企画が増え、自分たちにとってとてもプラスになりました。

### ⑨活動の展開

#### 人とのつながりを大切に

たくさんの場所へ出向くことで（ふれあいの祭典への参加もその一つ）、たくさんの方々とお話ができ、そのまま依頼をいただく事も多々ありました。人とのつながりが広がっていく事でさらに紹介していただけるので、活動の場所が広がり、いろいろなお仕事をさせていただけるようになりました。いつも笑顔でたくさんの方々と関わっていくスタイルがプラスになっていると思います。

## ひとことメッセージ

いろいろな場所でライブをさせてもらっています。

スタッフの人、共演者、お客さん、たった1回の演奏でとてもたくさんのお会いがありました。そして Children で出会った人、音楽が私たちを成長させてくれました。たくさんのお会いをありがとうございます。またどこかで音楽を通して出会えることを楽しみにしています。

## 高砂染で人々の交流や地域文化の再発見を

## 活動の概要

平成 19 年に「高砂神社秋祭り保存会」が、会の法被を新たに作るにあたって、永らく途絶えていた高砂染の柄を使用することになり、私たち地元の女性たちに縫製の依頼がありました。それから高砂染への関心が高まり、縫製に関わった女性らでこの会を結成し、高砂染めを復元する活動を始めました。

翌平成 20 年から高砂染の型紙を彫るところから始め、藍の種蒔きから育てたりする経験をしたり、型染めを復活するため試行錯誤を重ねています。

平成 21 年は、高砂幼稚園から 100 周年記念事業として園児に高砂染体験とあわせて、記念品にして配りたいという要望や、高砂市国際交流協会から姉妹都市のオーストラリアのラトロープ市の市長らの訪問時に高砂染体験の依頼を受け、資料展示と染体験を実施しました。



## 成果

テレビ、ラジオ、新聞などにもとりあげられ、話題にのぼるようになり、地域の関心も高まっています。

一般向けの高砂染の体験教室も好評です。高砂幼稚園での 100 周年記念の体験教室は、園児とお母さんという若い世代に高砂染を知ってもらうよい機会になりました。

## 課題

体験教室については、高砂染の二度染めの方法は、1 回の体験教室で作品を仕上げる難しさがあり、一度に多くの参加者を受け入れられないので、内容や募集方法にも工夫が必要と考えています。



## 夢・抱負・今後の推進方向

気軽に高砂染を知ってもらう機会を増やしたい。また、日常生活の中で高砂染を生かした作品づくり(クッション、ティッシュケースカバー等)を提案し、高砂染を身近なものにしたい。

自分たちの研修に力を入れ、地元の要請に応えられる会になりたいと考えています。また、同時に地域の人を巻き込みながら地域の活性化につなげたい。

団体名：高砂染「あいの会」

氏名：新木 田栄子

事務所の所在地：高砂市高砂町東宮町 1 6 9

電話： 0 7 9 - 4 4 2 - 5 7 9 7

## ノウハウ・コツ

### ③活動場所

#### 歴史的な建物を活動場所に

会員の所有である蔵を活動の発表の場や体験教室として利用させてもらっています。歴史的な建物なので、古くからあったが途絶えていた高砂染を再現するのにふさわしい雰囲気醸し出しています。

また、高砂染だけでなく高砂の歴史の学習にもつながっていくと思います。



### ⑤広報・情報共有

#### 積極的な情報発信

“高砂染復活”と最初から活動を取りあげてもらっている新聞社には、新しい試みをするときには情報提供をしています。新聞に記事が掲載されると、必ず地域の人の中で話題にのぼります。地道に活動することも大事ですが、情報発信も高砂染を知ってもらうためには大事なことです。

活動をしていると地域の人から「高砂染の浴衣がみつかったので提供する」などと情報が寄せられます。高砂染については、どのような柄があったのか、どのような染め方だったのか等、ほとんど情報がないので、こういった情報は貴重です。新聞に当会の活動が掲載されると、地域の人から情報もたらされるので、大きな意味があります。



### ⑨活動の展開

#### 地域の人に協力を求めていく

ペーパーに描かれた染めの型紙製作を地域の人にお願いしたり、染めの糊付けの時に使うさまざまなサイズの木枠の製作を地域の器用な人に材料代程度でお願いしています。協力いただいた人には、製作いただいたものをどのように使用するか見てもらったり、染め物を一度体験してもらって、理解が深まるようにしています。

メンバー以外の人を広く巻き込みながらサブ会員を増やし、高砂染を地域の活性化につなげたいと思っています。



## ひとことメッセージ

会員自体は少人数でも協働団体の人との交流を心がけ、孤立したグループにならないようにすることが重要です。

まだ高砂染の研究段階ですが、地元や市からの体験や見学はできるだけ応じるようにしています。地元や市とのつながりを持つことで講師の紹介や文献の提供などの協力が得られ活動が進みます。

「スポーツ指数のたかいいまち」をめざした地域づくり

活動の概要

多可町は平成 17 年 11 月 1 日に旧中町、旧加美町、旧八千代町の 3 町が合併して誕生しました。地域の社会体育事業は、各種スポーツ大会の開催など競技スポーツが大勢を占め、スポーツをする人とならない人の 2 極化を招いていたため、合併を機に、健康の維持・増進を柱にしたスポーツプログラムづくりなどに取り組むため、多可町は生涯スポーツ振興基本計画を策定しました。

当会は、この計画と方向を一にし、スポーツによる健康づくりやファミリースポーツプログラム(他世代交流プログラム)の促進等に取り組み、活動を広げています。

活動の目的は、①いつでも、どこでも、だれでも、いつまでもスポーツができる豊かな地域づくりを進める ②スポーツを通じたコミュニティーづくり・健康づくりを推進する ③親子で参加するスポーツなど多世代、多種目の活動を行い、交流による絆づくりと青少年の健全育成を図る、をめざしています。現在の会員数は約 700 名です。

《スポーツ種目》

【小学生】フットサル、少年野球、少年少女ソフトボール

【中学生】ミニサッカー、ソフトテニス

【小学生～一般】エアロビックダンス、ファミリーバドミントン、卓球、テニス(硬式・軟式)、家庭バレーボール、健康体操、ウォーキング等

成果

会員相互の交流が進み、地域のつながりが深まってきました。

行政主導から住民主導での活動が定着してきました。

ファミリースポーツプログラムとして楽しむ家族が増え、家族の絆づくりが進んでいます。また、一人の子どもを多くの大人が見る機会となり、褒める、叱る、認める等の声かけを通して青少年の健全育成に寄与しています。

課題

持続可能なクラブの運営方法の検討と指導者の育成。新規入会の促進。

夢・抱負・今後の推進方向

だれもが健康で生き生きと過ごすことができる地域をめざします。

スポーツを通して地域の小さな子どもから高齢者までがつながり、助け合えるクラブコミュニティづくりの推進。

住民のスポーツニーズに応えたプログラムの開発。

時代の変化に合った活動をし、地域の楽しみづくりや地域交流の活性化。

団体名：多可町スポーツクラブ 21 連絡協議会

氏名：(会長) 石塚幸世、多可町スポーツクラブ連絡協議会事務局

事務所の所在地：多可町中区岸上 281-51

電話： 0795-32-5122 FAX： 0795-32-1937

## ノウハウ・コツ

### ⑨活動の展開

#### スポーツによる健康づくりの拡大

健康の3要素として、休養・食事・運動があげられます。健康志向の高まりにあわせ、スポーツが果たす役割が大きくなっているため、当会では活動を広げ、食事・休養について学ぶプログラムも計画し、三位一体としての健康づくりを計画しています。

### ⑨活動の展開

#### 現状に合わせながら一歩先の布石を打つ

昨今、健康づくりへの関心が高まり、ウォーキング人口が増加しています。そこで当会では、ウォーキング人口のネットワーク化を図りました。月1回の活動日にコースの紹介や歩き方の講習をしていますが、この機会が会員相互のウォーキング情報を交換する場となっています。また、このつながりを機に一緒に歩くなどウォーキング仲間が広がり、スポーツの日常化・生活化が進んでいます。

### ⑨活動の展開

#### 地域住民の主体性を生かす

行政主導の与えられたスポーツ環境では、したいスポーツがないと答える住民が結構ありました。自らの会費で運営する当会では、自主的にプログラムを作成し、少人数でもしたい種目が実施できます（ただし、クラブ運営委員会の承認は必要）。

また、一般向けの7つのクラブでは種目の差異化と会員の交流を進めているので、会員の選択肢も広がっています。



ポールウォーキング



フライングディスクゴルフ

## ひとつことメッセージ

当会は、健康づくりやスポーツそのものを楽しむことに重点を置いています。そのため、スポーツ初心者への開拓も重視しています。一度活動の様子を覗いてみてください。

伝統文化を通じて、社会教育・国際理解・文化ボランティア提唱

活動の概要

伝統文化を通じ「広い心で観る、真の心を聴く、優しい心を食す」をテーマに芸術文化の専門家及び賛同者12名で発足。会員は46名、姫路市を中心に県域で活動しています。

活動の目的は、一般及び青少年への伝統文化普及、文化ボランティア推進、国際文化交流の理解促進、人材育成、子育て支援など社会教育の推進です。

主な活動歴は、'08年に全国菓子博協賛・世界文化遺産15周年記念事業としてジャンルを越えたグローバルな芸術交流公演「白鷺城フェスティバル」を企画開催しました。'09年には地域文化施設活性化事業「五感でアート」を官民協働にて各地で開催。まちの寺子屋では伝統文化体験会やユニークな親育て子育てセミナーを開催し地域づくりに貢献しています。



和楽器体験



まちの寺子屋活動

成果

イベントを重ねるごとに幅広い賛同者を得、文化ボランティアの理解促進と地域づくり活動が広がっています。

文化芸術を通じ地域活性化に役立つプログラム実現に向け会員相互の交流も活発になり、活動に対する意欲が高まっています。

課題

広報力アップの必要性和文化に対する一般からの寄付金の理解を促進すること。

夢・抱負・今後の推進方向

- 伝統文化を大切に、人を大切にする地域づくりが夢です。
- 未来を託す青少年に日本人の自覚と自信を持たせること
- 平和への感謝とより幸せな社会の実現に貢献すること

団体名：特定非営利活動法人 阿久伊羅

氏名：濱田昌子

事務所の所在地：兵庫県姫路市双葉町122番地

電話：079-222-4497 FAX：079-222-4498

E-mail：masako-odori@miracle.ocn.ne.jp

ホームページ：http://akuiira.takara-bune.net/



## 小学校区の特徴を生かした会員制スポーツクラブ

## 活動の概要

当地域では、姫路市が生活体育振興委員会を中心となって推進してきた地域スポーツを育む事業に基づき活動をしてきましたが、県の「スポーツクラブ 21 ひょうご」事業が始まったことから、前者を発展的解消する形でスポーツクラブ 21 に移行することにしました。

スポーツクラブ 21 的形は、日常生活の中で自発的にスポーツを楽しみ、各自の健康・体力を持続増進するとともに、会員相互の親睦を図り、地域社会の連帯と明るく豊かな生活の実現をめざすため、住民のスポーツコミュニケーション広場としての的形小学校校区に設立しました。

校区住民を中心に、スポーツ教室申し込み個人会員と既存団体クラブ員から構成され、5 スポーツ教室（卓球・グラウンドゴルフ・ペタンク・少年少女バレー・バドミントン）、4 既存団体（少年野球・ソフトボール・6人制革バレー・6人制ゴムバレー）が、小学校の施設を使用して楽しんでいます。また、市から地域スポーツ振興事業として委託を受け、校区連合自治会を中心に全校区住民を対象とした健康・体力づくりのための地域イベントを年4回実施しています。



ペタンク大会



バレー教室

## 成果

活動年数を重ねるにつれ、新しい会員が増加し、地域でスポーツを楽しもうという人が増えてきています。世代を超えた交流も出てき、住民間の交流が活発化しています。

また、地域スポーツ振興事業では、イベントによっては子ども会・婦人会の全面協力を得られるようになりました。

## 課題

運営スタッフの確保。多世代・多目的の会員に合った指導者の確保。既存グループや各種団体との協調。



## 夢・抱負・今後の推進方向

スポーツを楽しむ人の入り口として、スポーツ人口の底辺を支え、長くいろいろなスポーツを続け、楽しんでほしい。また、スポーツ選手の輩出も夢である。

現状の活動をどのように長く続けていくかを検討する必要がある、そのスポットとしてスポーツに関する講演会（スポーツ医学・ケガ・トレーニング方法）を実施したい。

団体名：スポーツクラブ 21 的形

氏名：(理事長) 後藤 崇

事務所の所在地：姫路市的形町的形 1 6 0 5

電話：0 7 9 - 2 5 4 - 1 8 6 5 FAX：0 7 9 - 2 5 4 - 1 8 6 5

ホームページ：http://matogata.deca.jp

①人材育成

体育会つながりでさがすとみつきやすい

スポーツクラブですから、大学まで体育会系でスポーツをしていた人や、学生時代に全国大会に出場した経験のある人、また、出場を目指していた人などは、スポーツに対する理解も志も高いので、指導者としても、また、組織運営にも参加していただきやすいと考えて積極的に声をかけています。

入ってもらった後は、組織運営に携わるメンバー間のコミュニケーション、つながり、楽しみの共有が大切だと思います。



⑧組織運営

会員の意見を吸い上げて組織運営の方向づけを

運営面においては、運営組織が新しいことは何かないと身構えず、会員または指導者の中から、こういう事をやってみたいという意見・希望が出てくるのを大切にしています。このような気配を感じたときに運営組織の動き始める絶好の機会です。

⑦行政の活用

県と市の事業を重ねることで定着度が高まる

姫路市から委託を受けた地域スポーツ振興事業では、校区内の全住民が気軽に参加できるスポーツ（親子ソフトバレーボール、歩こう会、グラウンドゴルフ等）を企画・実施し、会への入会のきっかけづくりに役立っています。

県の事業としての展開に市の委託事業としての展開を加えることで多くの住民が参加しやすく、また、コミュニケーションもしやすいので、より地域に密着した取り組みになっています。



ひとことメッセージ

子どもたちの真剣な目をみるのは楽しいですよ。

本のお医者さん（公共図書館の図書修理のお手伝い）

活動の概要

当社は、大正 12 年に図書館製本業として創業しました。経営理念である「事業を通して社会に貢献する」を具現化し、①地域文化に貢献し、振興をはかる、②次代を担う青少年に良質な図書を提供することを目的に、本を“治す”作業のできる「本のお医者さん」を育てる活動を行っています。

現在修理・修復を必要とする図書は全国で年間 200 万冊にも及ぶと見られています。しかし、さまざまな事情で図書修復の活動が停滞し、次の時代に読みつがれない図書がまだ数多くあります。

当社は事業活動で培ったノウハウを活かし、図書の再生、修理・修復のサポート活動をしています。

活動は、主として当社の図書館製本の工場がある兵庫県養父市周辺地域の図書館などを対象に実施していません。まずは、同市関宮町では親子を対象に、製本過程で使う技術などを織り込んだフォトフレームづくりを、また豊岡市立図書館では、図書館職員やボランティアの方を対象に、図書の修理・修復のセミナーを開催したほか、図書館の図書の修理を行っています。

成果

工場の生産状況を理解いただけるようになりました。地域の工場で何を生産しているのか、地元養父市の方でも知らなかったが、図書の修理をしていることなどが理解いただけました。

また、参加者の皆さんから「本を修復したい」「技術をマスターしたい」という思いが伝わり、“本のお医者さん”が必要とされていることが分かりました。

ワークショップで参加者に説明することは、自らの知識・技術を再確認できるため、貴重な社員教育となっています。

課題

当社が提供する修理・修復サービスの技術レベルと参加者の技術の開きがまだ大きく、参加者が求められるニーズに応じきれっていません。2 時間程度のレクチャーで効率よく技術やノウハウを伝えていこうと努力しています。

夢・抱負・今後の推進方向

通常業務とのバランスを考えて取り組んでいるため、開催回数や開催場所がなかなか増やせませんが、無理をせず、これまでどおり地元で継続的に開催したいと考えています。

団体名①： ナカバヤシ株式会社

氏名：橋詰 ゆかり 事務所の所在地：〒540-0031 大阪府中央区北浜東 1-20  
電話：06-6947-8826 FAX：06-6943-1868  
E-mail：yhashizu@nakabayashi.co.jp

団体名②：兵庫ナカバヤシ株式会社

氏名：小谷 英輔 事務所の所在地：〒667-0313 養父市大屋町笠谷 111 番地  
電話：079-669-0227 FAX：079-669-1846

ホームページ：http://www.nakabayashi.co.jp/

## ノウハウ・コツ

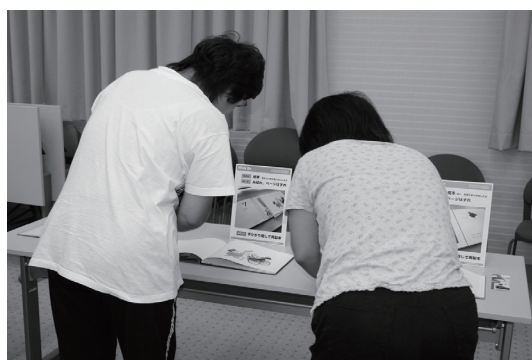
### まず一步を踏み出す

「自分たちが持っている長所を他の人のために役立ててもらおう」という気持ちで、まず地域に一步を踏み出すことから始まると思います。当社も踏み出すことで、自分たちが必要とされていることが分かりました。

その後は、お互いに意見を出し合い、すり合わせをしながら進めていけばよいのではないのでしょうか。

### ニーズの掘り起こしが大切

「本のお医者さん」活動は内容や形式を決めず、参加者が求めておられるニーズを、参加者との相談・コミュニケーションの中から掘り起こすようにしています。私たちが本を“治す”のは簡単ですが、参加者の皆さんが、習得していただいた技術を地域に持ち帰って実践していただくことが重要だと考えています。



### ひとつメッセージ

この活動を通して「本を慈しむ」心が広がっていくことを願っています。

## 学びの里日置

## 活動の概要

子供や高齢者が犠牲になる事件が多発し、思いがけない災害が勃発する状況にあつて、特に高齢化が進む中では、平穏な地域であっても、誰もが不安な生活を余儀なくされています。不安を払拭し、安全に安心して、より豊かに暮らせる地域にするために、住民自らが力を合わせ、心を合わせ、互いに見守りあいながら、福祉・教育・環境・文化・産業等々の地域課題に取り組もうと、まちづくり協議会を組織しました。

寛政8年に開設された石門心学の学問所跡「中立舎(ちゅうりゅうしゃ)」を地域のシンボリックな拠点施設としてよみがえらせるため広場事業を活用して改修しました。

「学びの里」として栄えてきた歴史的・地域的特性を生かし、地域の文化的な礎となるよう、「こころ学講座」による地域文化の伝承や「いきいき交流サロン」による世代間の交流活動等を展開しています。



## 成果

歴史と伝統に裏づけされた拠点施設を共有することで、地域活動に和と輪の広がりが増え、見守り活動や防災訓練、通学合宿、高齢者等のふれあいサロンなど、地域課題に対する新しい取り組みを始めました。

これまで個々に活動していた各種団体の地域活動が互いに認識され、新たな事業展開の中では協働による取り組みを進めるために連携が意図されるようになっていきます。

## 課題

県民交流広場事業も3年目が過ぎ、残り2年の事業が終了した段階で、施設管理についてはめどがついていますが、ソフト事業に対する資金調達が難しくなると感じています。5年目以後のソフト事業対応として「地域活性化助成事業」のメニュー化を期待します。

## 夢・抱負・今後の推進方向

本年を最後に日置小学校が閉校となり、3小学校が合併して「城東小学校」が誕生します。3つのまちづくり協議会組織をどのように展開するか、新しい連携事業を創造する課題もうまれることから、地域リーダーの養成や既成組織の合併などの課題も含め、山積する活動に期待と不安が交錯しています。試練は、時として新しい時代の幕開けとなります。

これまで積み重ねられてきた活動を継承しながら、さらに住民相互の協働と参画を図り、地域との関わりが希薄になっている若者の地域参加を呼びかけながら、豊かなふるさと観に根付いた人づくり、街づくりを進めます。

団体名：日置校区まちづくり協議会

氏名：(会長) 羽田 登喜雄 (事務局長) 向井 祥隆

事務所の所在地：〒669-2414 兵庫県篠山市宮ノ前292

電話：079-556-2638

E-mail：Yoshitaka-m@zeus.eonet.ne.jp

ホームページ：作成中

## ノウハウ・コツ

### ②活動資金

#### 利用料の徴収

1室につき500円（午前・午後・夜間とも）を頂いています。

この他、利用状況により今後検討したい。

また、現在交渉中であるが、社会福祉協議会が施設の近くにホームヘルパーの事務所として使っているところの3年契約の期限切れを待って、中立舎の利用を申請しています。これにより、使用料収入が可能となり、光熱水費が確保できるようになると考えています。

5年以降は、各戸500円の会費を自治会を通じて徴収する予定です。

### ①人材養成

#### 若い世代がリーダーとして参画

P T A、消防団等の若い世代の地域リーダーに委員（役員）として参画してもらう様にしています。例えば、防災訓練の代表は、消防団分団長が「安全・安心部会」の部長として活躍。P T A会長が「ふるさと交流部会」の部長として、盆踊り大会や通学合宿を主導しました。

また、郷土史家など地域に深い見識を持つ人たちを委員にすることで、「ふるさと」意識を高める機会が増え、地域の一員としての自覚を子どもから高齢者が共有することができています。

### ③活動場所

#### 共有財産としての認識を！

地域の財産である歴史的な施設を再利用することで、共有意識が高まり、新しい地域づくりの拠点となっています。

また、県民交流広場事業をつうじて、地域で従来から活動してきた団体を組織化することで、各種団体、各個別の活動が相互に認識できるようになりました。

鍵を3カ所に分割して保管し、利用者が借りやすい状況にし、日置校区に在住している人が窓口となり、どの様な利用にも自由に応じています。歴史的にも価値の高い備品があり、管理についての注意は、くれぐれも利用者に理解も求めています。



### ひとことメッセージ

地域づくりには共有できる財産と生き方(哲学)が必要です。子どもにとって「豊かなふるさと」とは自然や歴史文化だけではなく、多くの地域住民の中で育てられたという実感であり、「親しく語れる人」「思い出に残る人」こそが、地域人としての生き方を形成する大きな要素であり、「ふるさと観」の根幹となります。

「日置地域コミュニティサイクル」。代々に綿々と繋がり、語り継がれる「日置物語」。世代を超えてふるさとの人間関係は、螺旋階段状のコミュニティを形成しながら、時代の流れに添いながら、時にはその流れをも創る力となって、自らの「土」の力と、時には他地域の「風」の力を融合させ、新しいアイデンティティを持つ「日置」を創ります。